



2020.9.18

フィットジャンプ

サポートがあればそれを直ちに示すのがオークションの基本中の基本ですが、フィットの示し方はただフィットしたことを示しているだけでは足りず、第2のスイートの存在を示してパートナーにそれもフィットの有無を判断してもらうことが重要です。特に競り合いビッドでは、それを認識し活用しなければなりません。

競り合いビッドについて詳細に解説された本“Partnership Bidding at Bridge”からの例ですが

1 S - (3 C) - ?

となって ♠ KJ65 ♥ 1052 ♦ AQ1092 ♣ 4 を持っています。スペードがフィットしました。4枚サポートだからただ4Sレイズあるいは4Cキュービッドレイズすればよい、というのではないのです。4Sと言ってもオポーネントはたぶん5Cまで競ってきます。そうしたら5Sまで競るのでしょうか？ダブルするのでしょうか？この判断は自分ではないのです。パートナーに任せるのが重要で、パートナーがそれを判断しやすくしてあげることが必要です。自分にある良いサイドスイートの存在を示しておくことが特に重要です。この本からの引用ですが、例1ですと5Cはダブルするのが良いですね、スペードリードをNはSAで上がってD7をリターン。SはDAを上げてD10を出してDJがカバーされるが、パートナーはラフ。あとはどうしてもハート1ルーズはしますから2ダウンです。5Sは

例1	♠ AQ743	
	♥ KJ64	
	♦ 7	
	♣ J65	
♠ 1082		♠ 9
♥ Q87		♥ A93
♦ KJ85		♦ 643
♣ A83		♣ KQ10972
	♠ KJ65	
	♥ 1052	
	♦ AQ1092	
	♣ 4	

メイクできません。

しかしながら次のページの例2はレッドスイートのカードが少し入れ替わっただけです。NS側は簡単に5Sがメイクしますし、EW側も5Cがメイクしてしまいます。これはNのハンドの絵札点での強さと無関係です。重要な差は、第2のスイートのダイヤモンドがフィットしているかどうかです。これを2回に分けて示すには、相手は待ってくれません。すぐに5Cとあげてきます。だからダイヤモンドを示してから、スペードフィットを示すなどと悠長なことをやっている余裕

などないのです。

これを解決するのはそのことをいっぺんに示す手段があればよいのです。例1例2とも相手の3Cに対して4Dとジャンプしてレスポンスします。これはフィットジャンプと呼ばれていて、原則的に4枚サポートとダイヤモンドが良いセカンドスイートであることを示

例2	♠ AQ743	
	♥ Q	
	♦ KJ75	
	♣ J65	
♠ 1082		♠ 9
♥ KJ8764		♥ A93
♦ 8		♦ 643
♣ A83		♣ KQ10972
	♠ KJ65	
	♥ 1052	
	♦ AQ1092	
	♣ 4	

します。Sのハンドはこれにぴったり当てはまります。

フィットジャンプで、パートナー(レスポンス)のハンドパターンが判ると、Nは第2のスイートのフィットがあればさらに競るし、ミスフィットならダブルする方を選びます。ここに競り合いビッドの真髓が現れています。すなわちパートナーが良い判断が出来るように情報を与えることが競り合いビッドの秘訣だということです。そのための道具(例1例2ではフィットジャンプというツールですが)を持っていないければなりません。

重ねて言いますが、競り合いではまず最初に出てきたスイートがフィットしていなければ、パートナーは何か新しいスイートを言わないのが重要です。何かを言えばフィットしているということを原則にしていることよく理解しておいてください。ここが非競り合いビッドと大きく違う点です。非競り合いビッドでは、フィットを探すためにフィットしていなければ別なスイートをビッドして探しに行きますが、競り合いではフィットしなかった時はとりあえず相手にビッドをさせておきます。フィットしていないことはディフェンスをしようと言う意志をパスが表明しています。それでもさらに競りたい時はダブル(テークアウト)してフィットを見付けに行きます。再度言いますが、競り合いでは、何かスイートをビッドすればフィットあり、フィットしていない時はパスという原則が大事です。これは点数のありなしに関係しません。もちろんネガティブダブルをする場合はありますが。